

7割が現場薬剤師に

今春、72大学(学部)から6年制の第2期生が9491人輩出された。輩出大学は昨年度より5大学多く、約1000人増加した。このうち薬局には37.9%、病院には28.1%が就職、一般販売業を含めると全体の73.2%(昨年度75.3%)が薬剤師資格を必要とする進路に就いた。一方、非就職者、就職未定者合計は564人と全体の5.9%。

昨年度の166人(2.0%)に比べ実数、割合ともに大きく増加した。薬剤師国試の合格率が79.1%と前年度と比べ9ポイントほど低下したことも1つの要因と見られ、来年度以降も注目される。薬学教育協議会がまとめた「2013年3月薬系大学卒業生・大学院修了者就職動向調査の集計報告」により明らかになった。

薬学教育協議会 6年制卒業生の就職動向を調査

全国の薬系74大学(学部)のうち、今春第2期生を輩出したのは72大学で、全ての大学から回答が得られた。来年度は立命館大、鈴鹿医療科学大が加わり、全薬系大学が完成年度を迎えることになる。

今春の6年制卒業生9491人のうち男性は3907人(41.2

%)、女性は5584人(58.8%)だった。全就職者数は8749人(就職率92.2%)で男性3563人(91.2%)、女性5186人(92.9%)と、若干女性の就職率が高かった。

最も多い就職先はこれまで通り薬局で3601人(37.9%)、このうち男性は1427人で36.5%、女性は2174人で38.9%であった。昨年度は全体の39.0%、男性37.2%、女性40.3%と男女とも若干低下した。なお、ドラッ

グストアのうち薬局を併設する場合、「薬局」グループに分類している。

次に就職が多いのは病院の2666人(28.1%)、このうち男性946人(24.2%)、女性1427人(30.8%)であった。男性は前年度21.1%から増加したが、女性32.8%に比べ低下した。

設置主体別に見ると国公立大学付属及び独立行政法人病院へは4.7%(前年度3.6%)、公立大学法人付属病院及び自治体病院・自治体診療所へは4.3

% (3.8%)とそれぞれ増加したのに対し、私立大学病院付属病院及び一般病院・一般診療所へは19.1%(22.2%)と低下。実数でも昨年度の1888人を下回り1809人となり、国公立系病院系への就職が伸びた。

また、病院の中で臨床検査部門への就職者が175人(1.8%)と昨年度の91人(1.1%)に比べ倍増。中でも女性は125人(2.2%)と7割を占め、昨年度に比べ実数で2倍強と顕著に増加しているのが目立つ。

医薬品販売業のうちドラッグストア等への就職は682人(7.2%)、昨年度の562人(6.6%)に比べ実数、就職率ともに増加した。このうち男性は336人(8.6%)、女性346人(6.2%)であった。また卸売販売業への就職は59人(0.6%)と前年度の92人(1.1%)を下回り、比率も1%台を割り込んだ。特に女性は昨年度の66人から33人へ

次の夢は栄養情報担当者

尾久ミキ薬局 大島裕美さん

大島裕美さんは、小さな頃から薬を意識する環境の中で、薬学を目指し2012年に城西大学を卒業し、メディカルファーマシー「ミキ薬局」に入社。現在、東京の下町、荒川区西尾久にある東京女子医科大学東医療センター前の大型店舗に勤め、後輩の面倒を見つつ、今春で3年目に突入する。

幼い頃、兄弟がアトピー性皮膚炎のため塗り薬を使うのが日常で、両親が読むアトピーに関する書籍では、副作用を強調するような記述が多く、「薬を怖いものと感じていた」という。その後、中学、高校と薬について調べる中で「怖いものではないと思うようになった」と、薬局で会う薬剤師、薬学を目指すようになったという。

6年制1期生の学生時代は「授業についていくのに必死で勉強しました。実務実習に出てからは、授業で勉強したことを『こんなにも使うんだ!』と

思いました」と、臨床での基礎薬学の重要性を知ったという。

薬局での実務実習では在宅医療を体験した。「常勤が2人という小さな薬局でしたので、患者さんとはすぐに顔見知りになりました。また実習先の配慮で、看護師さんの訪問と合わせていただき、下の世話など実際の仕事を目の当たりし、とても貴重な体験をしました。寝たきりの患者さんに接するのも初めてで衝撃を受けました」という。

就職活動は、5年生も秋になってから各社の就職説明会に足を運び、実際の面接は、その冬から翌春にかけて。ちょうど実務実習の時期で「忙しかった」と振り返る。「昔から薬剤師になりたいと思っていて、それは薬局薬剤師さんのイメージでした」と、薬局勤務しか頭になかったという。

いくつかの薬局チェーンの説明会等に参加したなかで、「禁煙活動、栄養



管理のサポートを積極的に行っているという話を聞き、かつ、そのきっかけが1人の社員の意見から始まったと聞き、『社員の声を聞いてくれる会社』という印象を持ち、興味を惹かれました。大きな病院の前で処方箋も多様、勉強ができる環境だと思いました」と、最終的に選んだ理由を語る。

普段の業務では「まれにですが、患者さんからお叱りの言葉をもらうことがあります。自分で解決しなければなりません。今は先輩方に対処の仕方を聞きながらの対応で、もっと勉強するのを感じています」と語る。逆に、「ビタミンのとり方を聞かれた患者さんにすぐ対応し、感謝されたこともあ

新人を支援しつつ自己研鑽

ります」と微笑む。

同社では入社後、1年間で調剤から鑑査までの業務全般が一通りできるよう各種研修を行う。また「2年目」が新卒者を受け持ち、先輩薬剤師として新人研修等をフォローしている。従って、今の大島さんは先輩に教わりながら、かつ後輩を支援する立場にいる。

同社では禁煙など各種委員会活動が盛んで、「今後委員会活動に参加し、禁煙指導薬剤師を目指したい。そのほか食に興味を持っているので、管理栄養士には敵わないまでも、知識を身につけ栄養情報担当者(NR)も目指したい」と近未来の夢を語る。なお、同社では管理栄養士の職員が各薬局をめぐる「患者相談」にも取り組んでいる。

最後に「薬剤師になる前、国家試験は非常に高い目標でした。どんな難しいことも貫き通そうとすれば、必ず成功します」と後輩へエールを送る。

miki pharmacy 首都圏での店舗展開
ミキ薬局 東京都：20店舗 神奈川県：5店舗
 埼玉・千葉・山梨・栃木県：各1店舗

**私たちだからできること…
一緒に未来を描きませんか!**

「食と栄養」の情報発信もおこなう調剤薬局

株式会社メディカルファーマシー 本社：〒162-0056 東京都新宿区若松町9-12 KSビル 2F TEL 03-5368-2011
 人材開発部 saiyou@miki.ne.jp 設立/昭和54年2月 資本金/5,000万円 売上高/129億円 従業員数/240名(薬剤師167名)

会社説明会開催します!!
1/11(土) 1/18(土) 1/26(日)
詳しくはHPをご覧ください。

<http://miki-ph.jp>
twitter,facebookでも情報発信中!